

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名：一般国道8号 <small>なおえつ</small> 直江津バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北陸地方整備局
起終点：自：新潟県上越市大湊区犀潟 至：新潟県上越市虫生岩戸	延長	12.2km
事業概要 一般国道8号直江津バイパスは、交通混雑の緩和、地域開発の支援、地域ネットワークの充実強化などを目的とした延長12.2kmのバイパス事業である。		
S41年度 事業化	S42～H10年度 都市計画決定 (H元年度変更)	S42年度 用地着手
S43年度 工事着手		
全体事業費	約360億円	事業進捗率
		63%
供用済延長	2.8km(暫定2車線) 9.4km(完成2・4車線)	
計画交通量	16,200～39,900 台/日	
費用対効果分析結果	B/C	総費用
(事業全体)	2.0	(残事業)/事業全体 130 / 1015 億円
(残事業)	1.6	事業費：104 / 885億円 維持管理費：26 / 131億円
		総便益
		(残事業)/事業全体 209 / 2008 億円
		基準年
		平成25年
		(走行時間短縮便益：178/1704億円) 走行経費減少便益：28/244億円 交通事故減少便益：3.3/60億円
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C=1.8～2.1(交通量±10%) 事業費：B/C=2.0～2.0(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.9～2.0(事業期間±20%) 【残事業】 交通量：B/C=1.6～1.7(交通量±10%) 事業費：B/C=1.5～1.8(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.5～1.7(事業期間±20%)		
事業の効果等 ①北陸新幹線・上越妙高駅と主要観光地間を結ぶ観光ルートとしての機能向上 ・平成26年度開業予定の北陸新幹線・上越妙高駅と主要観光地間とのアクセス性向上が期待される。 ②重要港湾・直江津港へのアクセス向上 ・直江津港と大湊工業団地とのアクセス性向上が期待される。 ③日常生活圏の中心都市である旧上越市へのアクセス向上 ・国道8号沿線地域と上越市中心市街地とのアクセス時間が短縮し、日常生活の利便性向上が期待される。 ④第三次医療施設（新潟県立中央病院）へのアクセス向上 ・第三次医療施設への救急搬送時間が短縮され、救命率の向上に寄与することが期待される。 ⑤緊急輸送道路としての信頼性向上 ・北陸自動車道の代替ルートとしてリダンダンシー機能を発揮することが期待される。		
関係する地方公共団体等の意見 知事の意見： 地域住民の安全・安心の確保や地域の振興のため、事業を継続する必要がある。 ただし、過去に発生した災害を踏まえて事業の優先順位を考える必要がある。 また今後は、国土軸の構築が重要であることから、都市間ネットワークの形成も考慮して優先順位を判断すべきである。 なお、都市内の交通混雑の緩和については、TDMの活用の可能性など、総合的な観点からも考えるべきである。		
事業評価監視委員会の意見 対応方針については、北陸地方整備局原案を妥当と判断するが、今後は以下に留意されたい。 ・劣化、老化などを踏まえた大規模修繕等の維持管理費を考慮することを検討頂きたい。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・バイパス周辺における工業団地、大型商業施設、土地区画整理事業等の開発や市街化区域の拡大が進み、北陸自動車道及び上信越自動車道の全線開通後も交通混雑が生じている。 ・平成17年1月に旧上越市、安塚町、浦川原村、大島村、牧村、柿崎町、大湊町、頸城村、吉川町、中郷村、板倉町、清里村、三和村、名立町が上越市として合併。		
事業の進捗状況、残事業の内容等		

昭和43年度に工事着手して、事業進捗率63%、そのうち用地進捗率85%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

三ツ屋～下源入（山側）の3車線化整備を推進するとともに、引き続き残りの区間の整備を推進する。

施設の構造や工法の変更等

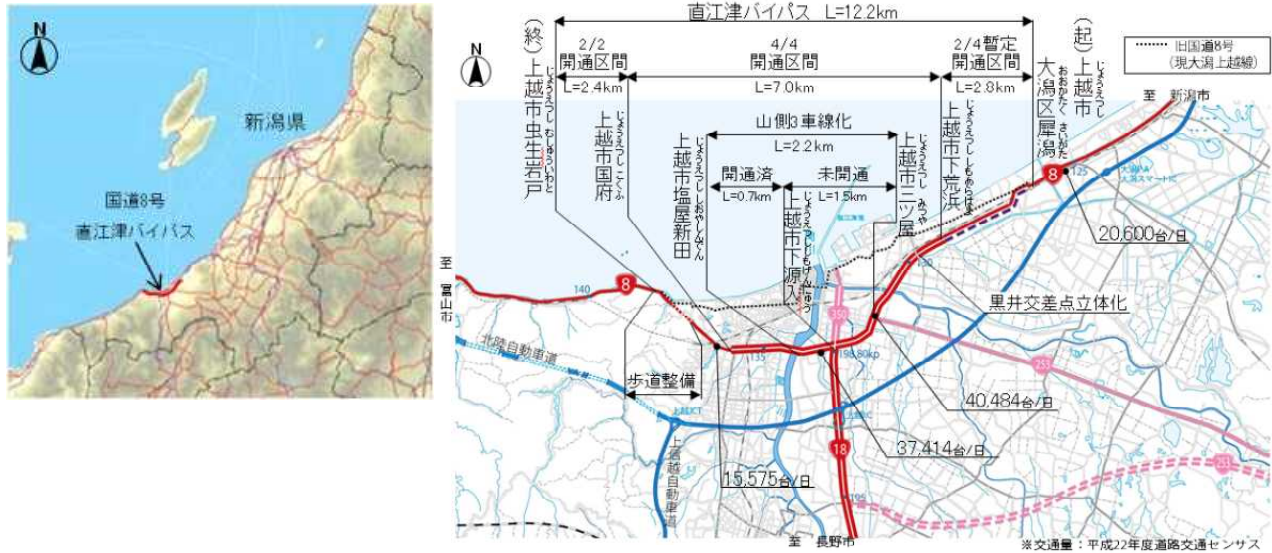
戸野目川橋における拡幅部の橋梁構造の工夫によりコスト縮減を図っており、引き続き新技術の活用等によりコスト縮減に努めていく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。